

府中市ごみ組成分析委託
調査結果報告書
(平成 27 年度)

平成 28 年 1 月

目 次

1. 調査件名	1
2. 調査目的	1
3. 調査概要	1
3-1 調査実施場所	1
3-2 調査地区及び日程	1
3-3 調査手順	2
4. 調査結果	4
4-1 燃やすごみ	4
1) 湿ベース	4
2) 乾ベース	5
4-2 燃やさないごみ	8
4-3 容器包装プラスチック	9
5. 過年度調査との比較	10
5-1 燃やすごみ	10
5-2 燃やさないごみ	11
5-3 容器包装プラスチック	12
6. まとめ	13

家庭ごみ組成分析調査

1. 調査件名

ごみ組成分析委託

2. 調査目的

府中市のごみを指定収集袋の種別ごと（燃やすごみ・燃やさないごみ・容器包装プラスチック類の3種類）にどういった内容のごみ・資源が入っているか組成分析を行い、その排出内容に係る組成について分析調査を行うことにより、改善検討を要する事項を洗い出し、今以上にごみの適正な排出の促進に資することを目的とする。

3. 調査概要

3-1 調査実施場所

府中市リサイクルプラザ（府中市四谷 6-58）

3-2 調査地域及び日程

調査対象地域は市内の戸建住宅地区、集合住宅地区及び事業者地区(以下「地区」と表す)から市が指定した各々1地区とした。(選定は市が行った)これらの地区から「燃やすごみ」「燃やさないごみ」「容器包装プラスチック」について組成分析を行った。

調査地区及び日程を表 3-1 に示す。

表 3-1 調査地区及び調査日程

調査地区 \ 項目	燃やすごみ	燃やさないごみ	容器包装プラスチック
是 政 3 丁 目 (家庭系・戸建)	12月10日(木)	12月15日(火)	12月4日(金)
緑 町 1 丁 目 (家庭系・集合)	12月7日(月)	12月4日(金)	12月15日(火)
宮西町1～4丁目 (事 業 系)	12月15日(火)	12月10日(木)	12月7日(月)

(注) 事業系調査地区については、排出量が少ないため、不足分については、他地域から補填した

3-3 調査手順

調査手順を図 3-1 に示す。

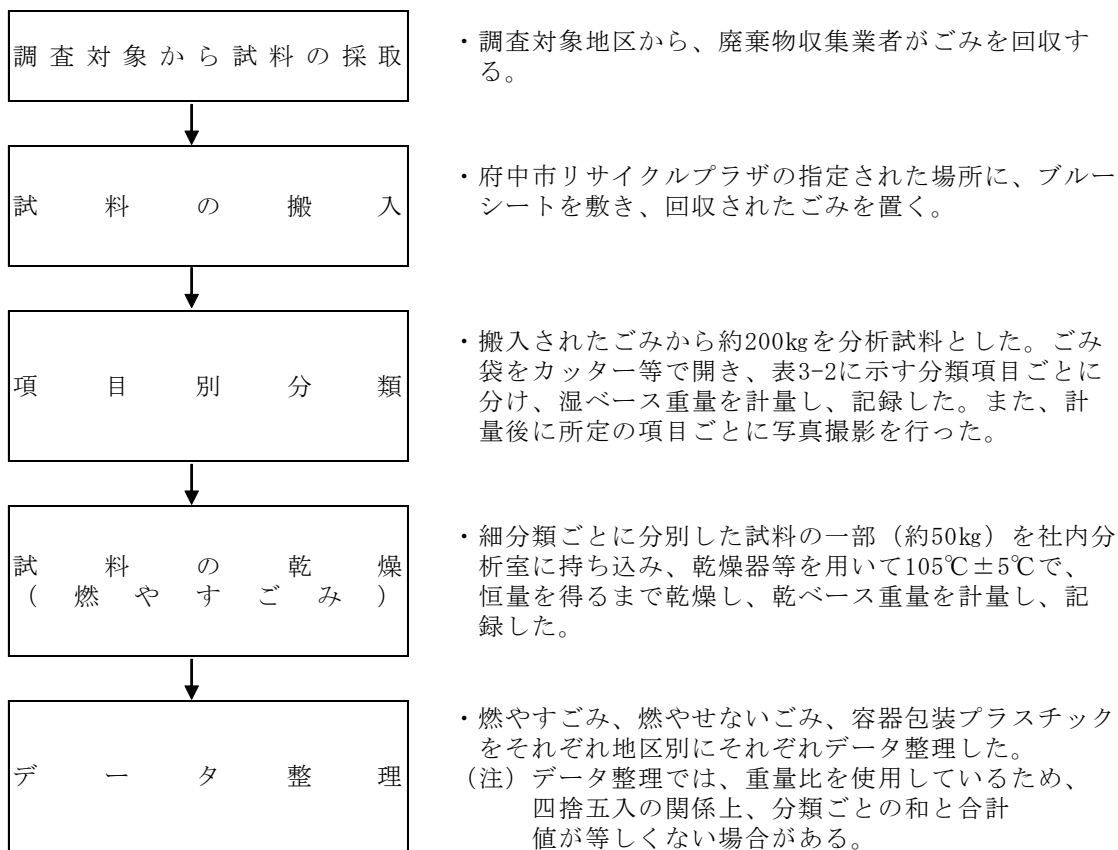


図 3-1 調査手順

表 3-2 分類項目

大分類	中分類	小分類	細分類	No.	分別
資源	びん類			1	資源
	缶類	飲食用アルミ缶		2	資源
		飲食用スチール缶		3	資源
		その他アルミ缶		4	燃やさないごみ
		その他スチール缶		5	燃やさないごみ
	紙類	新聞紙		6	資源
		雑誌		7	資源
		シュレッダー紙		8	資源
		ダンボール		9	資源
		紙バック		10	資源
		その他雑紙		11	資源
	繊維			12	資源
	プラスチック類	容器包装プラスチック	発泡トレイ	13	容器包装プラスチック
			発泡スチロール類	14	容器包装プラスチック
			プラスチックボトル	15	容器包装プラスチック
			硬質プラスチック	16	容器包装プラスチック
			フィルム類(軟質)	17	容器包装プラスチック
			レジ袋	18	容器包装プラスチック
		容器包装プラスチック以外	19	燃やさないごみ	
		ペットボトル	20	資源	
不燃ごみ	金属		21	燃やさないごみ	
	ゴム・皮革		22	燃やさないごみ	
	ガラス		23	燃やさないごみ	
	陶磁器		24	燃やさないごみ	
	土砂		25	燃やさないごみ	
	その他不燃物		26	燃やさないごみ	
	危険物(スプレー缶、ライター)		27	危険ごみ	
	有害物(乾電池、蛍光灯、体温計)		28	有害ごみ	
可燃ごみ	厨芥		29	燃やすごみ	
	剪定枝葉		30	粗大ごみ(資源)	
	木・草類		31	燃やすごみ	
	紙おむつ		32	燃やすごみ	
	その他可燃物		33	燃やすごみ	
粗大ごみ(概ね最長の1辺が40cm以上の物)				34	粗大ごみ

4. 調査結果

4-1 燃やすごみ

1) 湿ベース

燃やすごみの組成分析結果を表 4-1 及び図 4-1 に示す。

3 地区平均では、厨芥が 55.15%と最も高い値であった。燃やすごみの排出不適物は不燃ごみが 0.68%、資源が 19.22%、粗大ごみが 0.45%であった。

また、地区別では、是政 3 丁目（家庭系・戸建）で紙おむつ、緑町 1 丁目（家庭系・集合）及び宮西町 1～4 丁目（事業系）で資源の排出割合が高い傾向があり、資源の内訳としてその他雑紙の排出が多くみられた。

表 4-1 組成分析結果

項目		地区			
		是政3丁目 重量比 (%)	緑町1丁目 重量比 (%)	宮西町1～4丁目 重量比 (%)	3地区平均 重量比 (%)
可燃ごみ	厨芥	55.91	50.59	60.75	55.15
	剪定枝葉	0.08	0.15	—	0.08
	木・草類	4.48	5.47	4.63	4.86
	紙おむつ	12.52	4.94	—	7.07
	その他可燃物	11.65	13.26	12.96	12.50
不燃ごみ合計		0.55	1.09	0.30	0.68
粗大ごみ		1.05	—	—	0.45
資源合計		13.75	24.50	21.37	19.22
合計		100.00	100.00	100.00	100.00

注)「3地区平均」は各地区の合計重量の重量比とする。

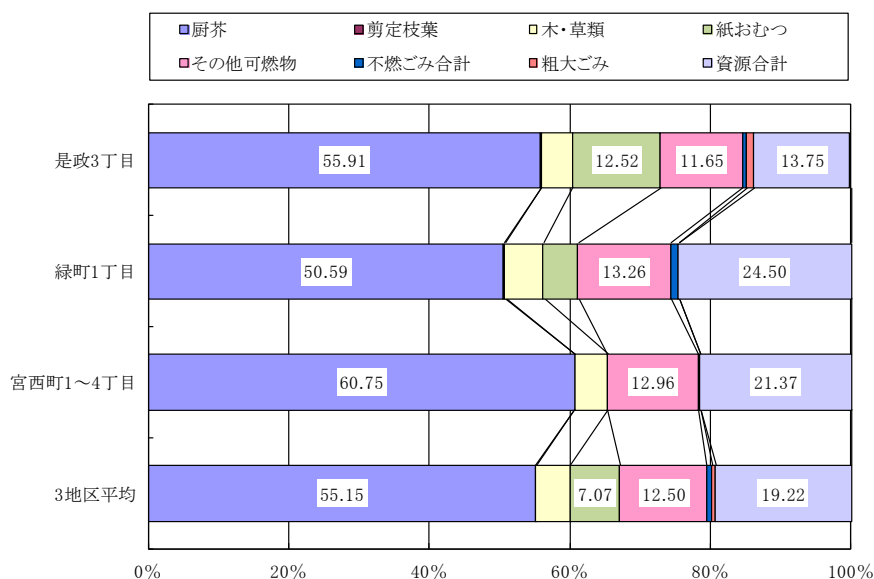


図 4-1 組成分析結果

2) 乾ベース

(1) 3 地区平均

湿ベースと乾ベースの比較を表 4-2 及び図 4-2 に示す。

湿ベースでは、厨芥が 55.15%、資源が 19.22%、その他可燃物が 12.50%の順であったが、乾ベースでは、資源が 40.36%、厨芥が 23.89%、その他可燃物が 22.59%の順となっており、乾燥により水分の多い厨芥は大きく減少した。

表 4-2 乾燥後調査結果

分類項目		3地区平均	
		湿ベース	乾ベース
		重量比 (%)	重量比 (%)
可燃ごみ	厨芥	55.15	23.89
	剪定枝葉	0.08	0.11
	木・草類	4.86	5.09
	紙おむつ	7.07	5.44
	その他可燃物	12.50	22.59
不燃ごみ合計		0.68	1.47
粗大ごみ		0.45	1.05
資源合計		19.22	40.36
合計		100.00	100.00

注)「3地区平均」は各地区の合計重量の重量比とする。

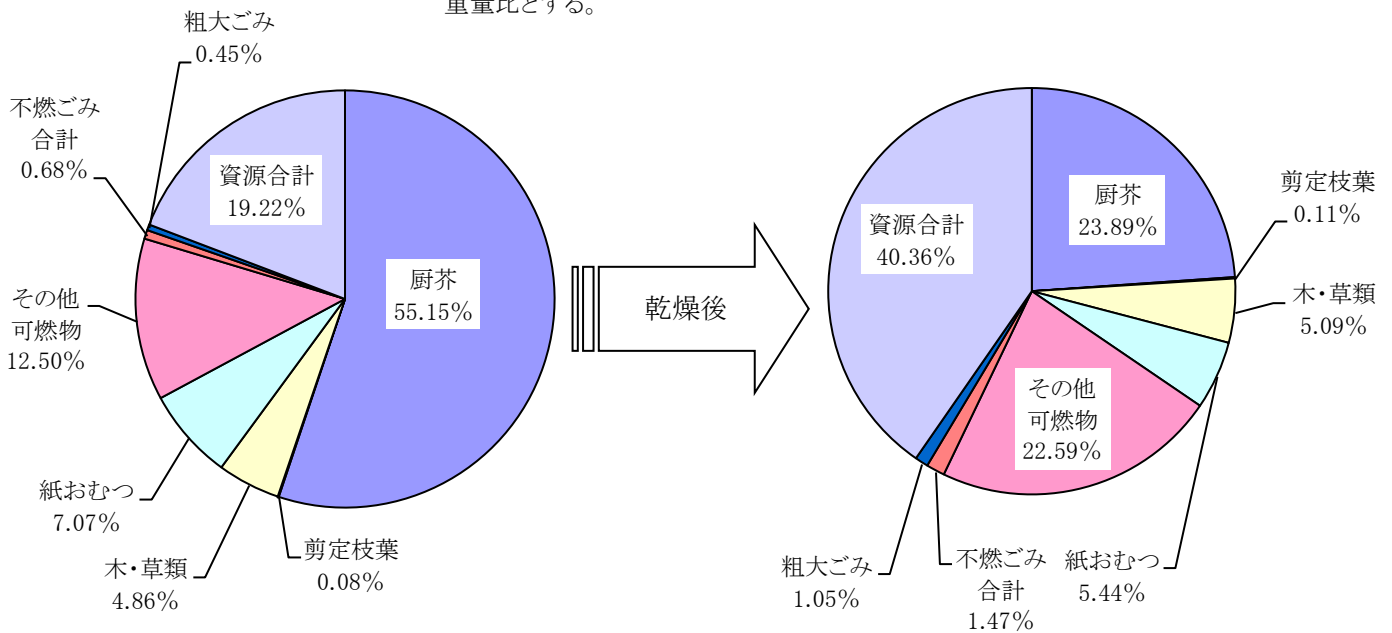


図 4-2 乾燥後調査結果

(2) 地区別

地区別の燃やすごみの乾ベースとの比較を表 4-3 及び図 4-3 に示す。

是政 3 丁目(家庭系・戸建)の湿ベースでは、厨芥が 55.91%と最も高く、次いで資源が 13.75%、紙おむつが 12.52%の順であったが、乾ベースでは資源が 31.85%、厨芥が 26.58%、その他可燃物が 23.58%の順に高い値となった。

緑町 1 丁目(家庭系・集合)の湿ベースでは、厨芥が 50.59%と最も高く、次いで資源が 24.50%、その他可燃物が 13.26%の順であったが、乾ベースでは資源が 46.55%、その他可燃物が 22.88%、厨芥が 18.46%の順に高い値となった。

宮西町 1~4 丁目(事業系)の湿ベースでは、厨芥が 60.75%と最も高く、次いで資源が 21.37%、その他可燃物が 12.96%の順に高い値となった。乾ベースでは資源が 45.23%、厨芥が 28.54%、その他可燃物が 20.22%の順に高い値となった。

表 4-3 地区別乾燥後調査結果

地 区 項 目		是政3丁目		緑町1丁目		宮西町1~4丁目	
		湿ベース	乾ベース	湿ベース	乾ベース	湿ベース	乾ベース
		重量比 (%)	重量比 (%)	重量比 (%)	重量比 (%)	重量比 (%)	重量比 (%)
可 燃 ご み	厨芥	55.91	26.58	50.59	18.46	60.75	28.54
	剪定枝葉	0.08	0.10	0.15	0.18	—	—
	木・草類	4.48	3.26	5.47	6.82	4.63	5.41
	紙おむつ	12.52	10.71	4.94	2.98	—	—
	その他可燃物	11.65	23.58	13.26	22.88	12.96	20.22
不燃ごみ合計		0.55	1.30	1.09	2.16	0.30	0.60
粗大ごみ		1.05	2.61	—	—	—	—
資源合計		13.75	31.85	24.50	46.55	21.37	45.23
合計		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

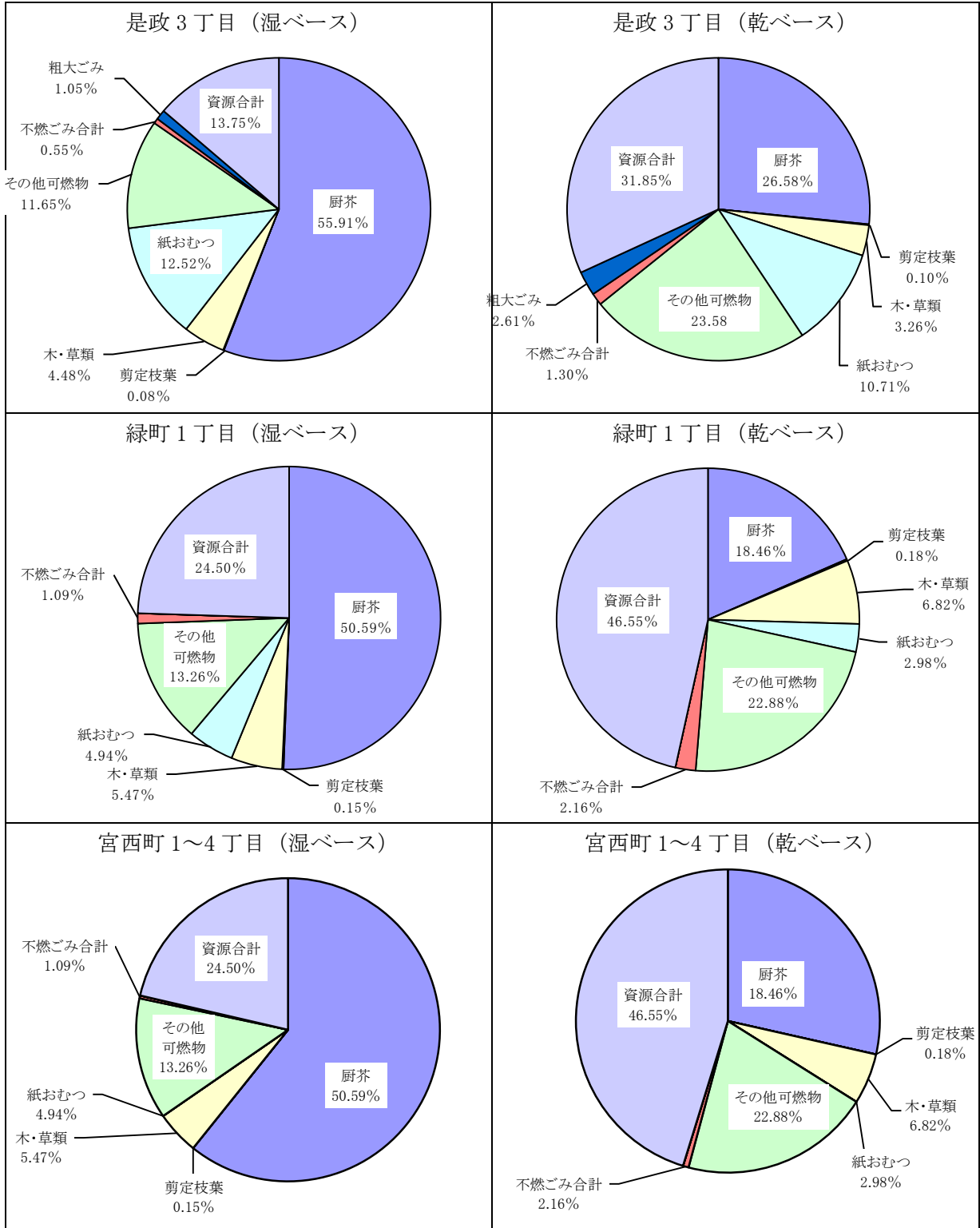
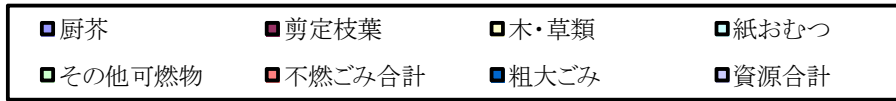


図 4-3 地区別乾燥後調査結果

4-2 燃やさないごみ

燃やさないごみの組成分析結果を表 4-4 及び図 4-4 に示す。

3 地区平均では、その他不燃物が 39.96%と最も高い値であった。燃やさないごみの排出不適物は可燃ごみが 6.62%、粗大ごみが 1.11%、資源が 17.08%であった。

また、地区別では、是政 3 丁目(家庭系・戸建)で金属が 15.77%と他地区と比べて高い値となった。宮西町 1~4 丁目(事業系)では、資源が 40.74%と他地区と比べて高い値となり、内訳としてプラスチックボトル及び飲食用スチール缶の排出が多くみられた。

表 4-4 組成分析結果

項目		地区			
		是政3丁目	緑町1丁目	宮西町1~4丁目	3地区平均
		重量比 (%)	重量比 (%)	重量比 (%)	重量比 (%)
不燃ごみ	金属	15.77	6.94	4.36	11.38
	ゴム・皮革	18.17	18.53	8.91	17.69
	ガラス	1.89	1.89	0.55	1.80
	陶磁器	3.24	5.57	—	3.98
	土砂	—	0.17	—	0.07
	その他不燃物	41.07	38.30	41.46	39.96
	危険物(スプレー缶、ライター)	0.11	0.29	—	0.18
	有害物(乾電池、蛍光灯、体温計)	0.20	0.10	—	0.14
可燃ごみ合計		4.75	9.44	3.96	6.62
粗大ごみ		—	2.71	—	1.11
資源合計		14.78	16.06	40.74	17.08
合計		100.00	100.00	100.00	100.00

注)「3地区平均」は各地区の合計重量の重量比とする。

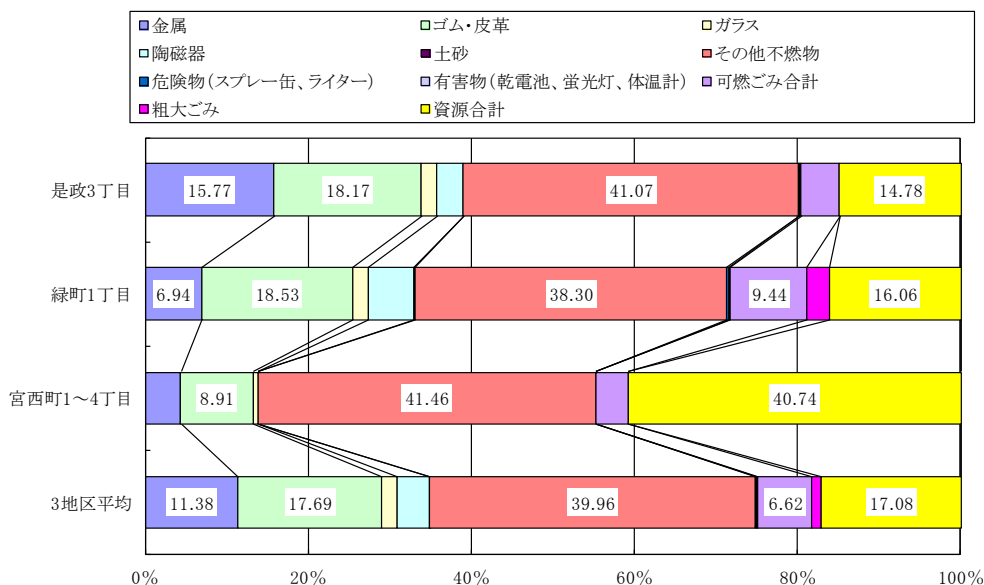


図 4-4 組成分析結果

4-3 容器包装プラスチック

容器包装プラスチックの組成分析結果を表 4-5 及び図 4-5 に示す。

3 地区平均では、フィルム類(軟質)が 47.33%と最も高い値となった。容器包装プラスチックの排出不適物は可燃ごみが 4.26%、不燃ごみが 5.36%、容器包装プラスチック以外のその他資源が 2.30%であった。

また、地区別では、宮西町 1~4 丁目(事業系)でフィルム類(軟質)が 59.48%であり他地区と比べて高い値となった。

表 4-5 組成分析結果

項 目			地 区				
			是政3丁目 重量比 (%)	緑町1丁目 重量比 (%)	宮西町1~4丁目 重量比 (%)	3地区平均 重量比 (%)	
資源	プラスチック類	容器包装 プラスチック	発泡トレイ	3.12	4.37	1.89	3.00
			発泡スチロール類	0.88	1.18	1.90	1.20
			プラスチックボトル	8.59	9.01	6.34	8.06
			硬質プラスチック	28.33	26.99	10.43	23.40
			フィルム類(軟質)	44.81	36.47	59.48	47.33
			レジ袋	4.91	5.76	5.02	5.08
その他資源合計			2.71	2.97	1.00	2.30	
可燃ごみ合計			2.24	8.81	5.90	4.26	
不燃ごみ合計			4.41	4.44	8.02	5.36	
粗大ごみ			—	—	—	—	
合計			100.00	100.00	100.00	100.00	

注)「3地区平均」は各地区の合計重量の重量比とする。

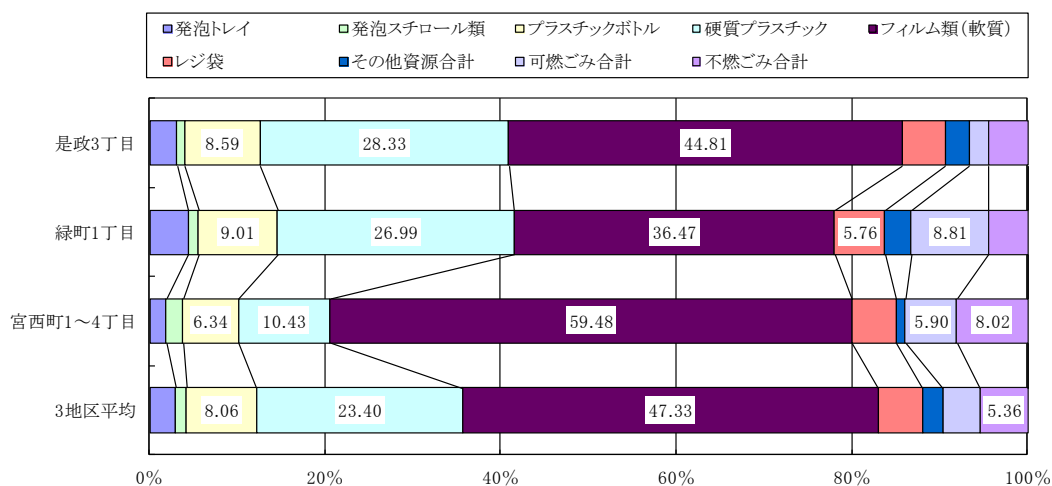


図 4-5 組成分析結果

5. 過去年度調査との比較

平成 25 年度調査から今年度にかけて 3 年間分の調査結果の比較を行った。なお、比較は燃やすごみ、燃やさないごみ及び容器包装プラスチックで行った。

5-1 燃やすごみ

燃やすごみの経年変化結果を表 5-1 及び図 5-1 に示す。

燃やすごみでは、平成 26 年度まで厨芥、その他可燃物、資源の順に多く排出されているが、今年度は厨芥、資源、その他可燃物の順に多く排出されている。また、厨芥は平成 25 年度から増加傾向となっている。

表 5-1 燃やすごみの経年変化結果

地 区 項 目		平成25年度	平成26年度	平成27年度
		重量比 (%)	重量比 (%)	重量比 (%)
可 燃 ご み	厨芥	44.06	48.60	55.15
	剪定枝葉	—	0.05	0.08
	木・草類	2.26	6.97	4.86
	紙おむつ	10.08	5.89	7.07
	その他可燃物	22.93	21.73	12.50
不燃ごみ合計		0.82	1.11	0.68
粗大ごみ		—	—	0.45
資源合計		19.85	15.65	19.22
合計		100.00	100.00	100.00

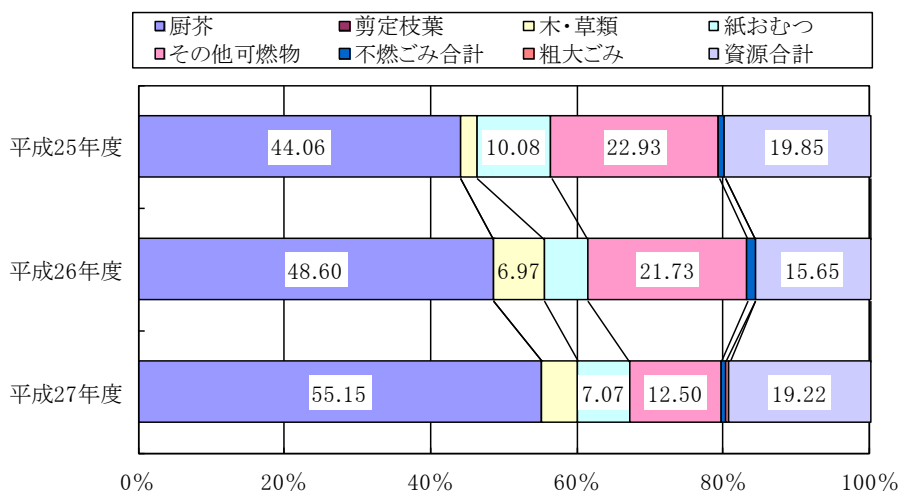


図 5-1 燃やすごみの経年変化結果

5-2 燃やさないごみ

燃やさないごみの経年変化結果を表 5-2 及び図 5-2 に示す。

燃やさないごみでは、平成 25 年度から金属が増加傾向となっている。また、燃やさないごみ中の可燃ごみの割合は平成 25 年度から減少傾向となっている。

表 5-2 燃やさないごみの経年変化結果

項 目		地 区		
		平成25年度 重量比 (%)	平成26年度 重量比 (%)	平成27年度 重量比 (%)
不 燃 ご み	金属	5.90	7.02	11.38
	ゴム・皮革	11.84	9.00	17.69
	ガラス	0.96	2.68	1.80
	陶磁器	5.51	5.56	3.98
	土砂	0.03	-	0.07
	その他不燃物	45.54	47.58	39.96
	危険物(スプレー缶、ライター)	0.13	0.41	0.18
	有害物(乾電池、蛍光灯、体温計)	0.28	0.20	0.14
可燃ごみ合計		10.45	7.13	6.62
粗大ごみ		1.85	3.02	1.11
資源合計		17.51	17.40	17.08
合計		100.00	100.00	100.00

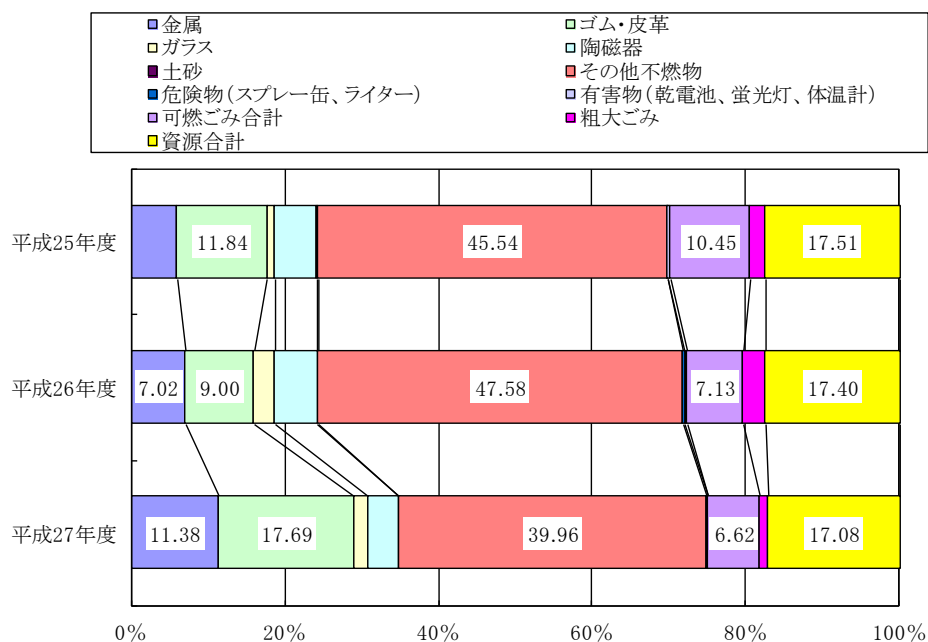


図 5-2 燃やさないごみの経年変化結果

5-3 容器包装プラスチック

容器包装プラスチックの経年変化結果を表 5-3 及び図 5-3 に示す。

容器包装プラスチックでは、フィルム類(軟質)が平成 25 年度から減少傾向となっている。また、容器包装プラスチックの適正排出割合は、平成 25 年度から 80%以上となっている。

表 5-3 容器包装プラスチックの経年変化結果

項目			地区			
			平成25年度 重量比 (%)	平成26年度 重量比 (%)	平成27年度 重量比 (%)	
資源	プラスチック類	容器包装 プラスチック	発泡トレイ	2.68	1.93	3.00
			発泡スチロール類	0.44	0.94	1.20
			プラスチックボトル	5.59	9.01	8.06
			硬質プラスチック	19.87	24.75	23.40
			フィルム類(軟質)	51.24	48.28	47.33
			レジ袋	4.91	5.50	5.08
			その他資源合計	2.79	1.75	2.30
可燃ごみ合計			5.68	2.65	4.26	
不燃ごみ合計			6.79	5.20	5.36	
粗大ごみ			—	—	—	
合計			100.00	100.00	100.00	

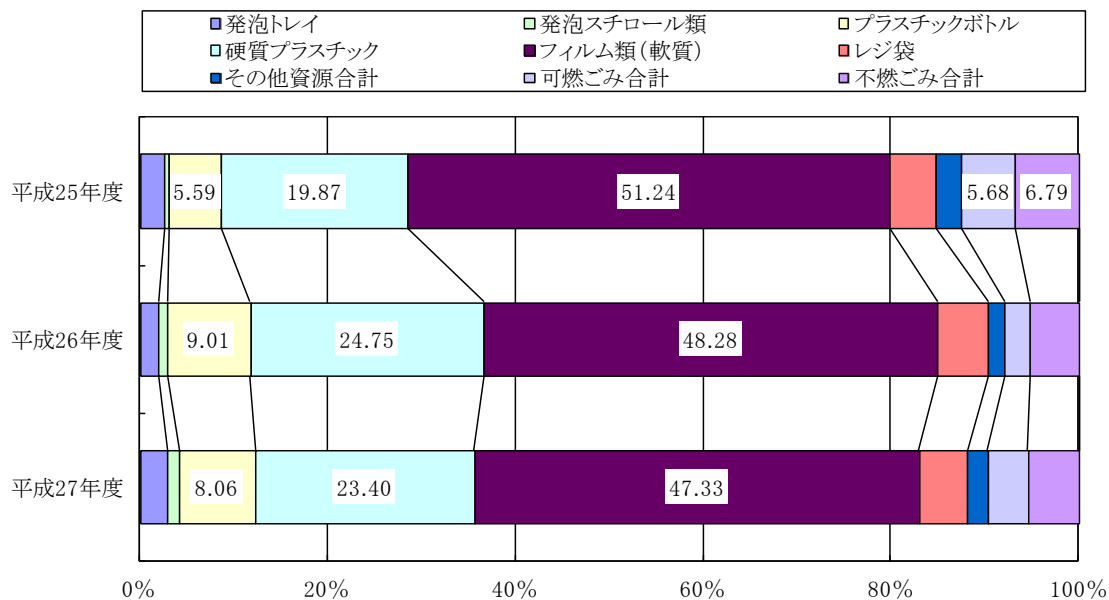


図 5-3 容器包装プラスチックの経年変化結果

6. まとめ

6-1 燃やすごみ

燃やすごみの調査結果では、厨芥が全ての地区で 50%以上と過半数を占める割合となっている。厨芥では水分量が約 70%である。厨芥ごみ排出の際に、水切りをしてから排出することで、ごみ排出量の削減が考えられる。また、市ではごみ減量化処理機器の購入費補助制度があるため、厨芥の堆肥化を促進することでもごみ排出量の削減が考えられる。燃やすごみ中に含まれる資源の混入率が 3 地区平均で約 19%と高くなっている。資源の内訳として紙類が約 11%と過半数を占める割合となっており、中でもその他雑紙の割合が多くなっている。各世帯及び事業所へ分別の周知をすることで、分別協力率の向上が考えられる。

6-2 燃やさないごみ

燃やさないごみの調査結果では、3 地区平均でその他不燃物が 39.96%と高い割合となっている。地区別にみると地区によりばらつきがみられ、宮西町 1~4 丁目(事業系)では燃やさないごみ中に含まれる資源の排出割合が 40.74%と高くなっている。資源の内訳として、プラスチックボトル及び飲食用スチール缶の排出が目立っていた。各事業所において分別に対する認識の低さがみられる。

6-3 容器包装プラスチック

容器包装プラスチックの調査結果では、容器包装プラスチックの排出が全ての地区で 80%以上となっており、分別協力率は高くなっている。容器包装プラスチックの内訳では、フィルム類(軟質)、硬質プラスチック、プラスチックボトルの順に多く排出されている。

